

なぜ 英語が話せないの

<18>

一件二十万円を五十万円とする異例の決定を行った。この間、振興会の主任理事を務めた福田教授は税金対策、振興会の財団法人化など雑多な事務処理に追われた。

I.T.C.計画が実施段階に近づくなか、外人講師の確保、受講する先生の代替教師探し、受講した結果、同年春には十五人を

学校で教え、続いてまた別の学校へ移って教える人を県下各地で探さなければならぬ。途中で、教育庁から「予算問題は解決しても、代替教師が見つからねば、この計画は流産しかねない」との懸念も出た。しかし、福田教授らが八方手を尽くして探した結果、同年春には十五人を

県下の中、高校英語教師四十五人が申し込んだ。一回の受講定員十五人の三倍に当たる。殺到ぶり。この数字は、間もなく百人にも達し、参加者の決定は各学校に任せられた。

外人講師探しは大変だった。外人教師の給与年額を三百万円とすると、フォード財団の二万

英語の先生を再教育する画期的な実験である「集中訓練計画」(略称I.T.C.)を実施にこぎつけるため、福田昇八・熊本大学教授は昭和四十五年、熊本県教育庁を訪れた。前年「計画は面白いが、実現は困難」と「拒絶 反応」を示した同庁が「集中講義を受ける中学教師の代役を務める補助教員十人分を予算措置する」と申し出た。

集中訓練計画が軌道へ

難航した予算確保や外人講師探し

「教育県・熊本を確立しよう」との機運が盛り上がったのが、事態好転につながり、語学教育振興会(茅誠司理事長)で、月、I.T.C.計画の推進母体にな

って協力を要請、難局打開の糸口になりました」

この進展に呼応するように三

ド財団から二万円の補助金決定が伝えられた。県も六月議会補助教員候補者は、英語の免

希望者調べ……、難問はまた山超える候補者が見つかった。

続いて五月、受講希望者の調査が始まった。九月から開講する

「教育振興会(茅誠司理事長)で、月、I.T.C.計画の推進母体にな

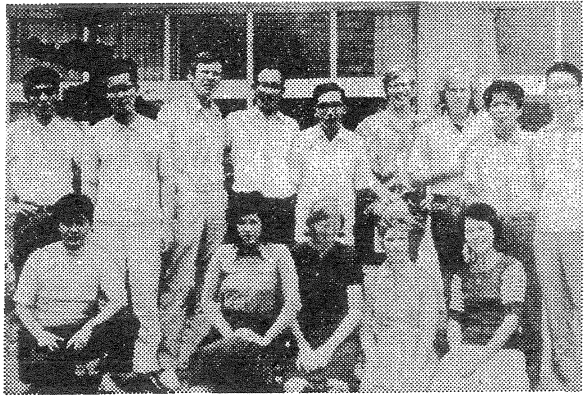
って協力を要請、難局打開の糸口になりました」

この進展に呼応するように三

ド財団から二万円の補助金決定が伝えられた。県も六月議会補助教員候補者は、英語の免

希望者調べ……、難問はまた山超える候補者が見つかった。

続いて五月、受講希望者の調査が始まった。九月から開講する



研修期間の2カ月ですっかり米人教師と打ち解けた英語教師たち

で大分市在住のアメリカ女性三承諾したのは開講一週間前とい人と連絡を取り、面接。三人がう際どきであった。